

森枝敏郎（もりえだとしろう）プロフィール

熊本県地域福祉実践研究会 代表

（実践者、研究者、行政職員等のインフォーマルネットワーク）

- ・熊本学園大学社会福祉学部 非常勤講師（福祉管理運営論）
- ・熊本歯科衛生士専門学校 非常勤講師（衛生行政）
- ・阿蘇圏域福祉有償運送協議会 会長
- ・認定NPO 法人とら太の会（20年前から地域共生を理念）理事
- ・水俣病・水俣再生市民学会 世話人代表 ほか

○九州大学経済学部卒業、1974（昭和49）年4月、行政職として熊本県入庁

・出納室会計課に新たに設置された資金管理班（県の歳計現金、各種基金を運用）でスタートし、退職まで17回異動しましたが、振り返って見ると、新たな組織やプロジェクト、あるいは新たな制度下での仕事が多かったためか、（1）前例がない仕事ほど面白い。（2）いかなる仕事も創意・工夫の余地がある。（3）（社会は常に変化しているので、）前例や制度は変えるためにあるようなものだ。と思うようになりました。具体的には、

・細川護熙知事時代に創設された「市町村派遣制度」第1号として1985（昭和60）年4月、阿蘇郡小国町役場に派遣され、住民と行政の協働による地域づくり、地域の主体性の向上を図りながら地域特性を活用した地域づくりを推進したこと。

・福島譲二知事時代、水俣再生推進の中核組織・水俣振興推進室（1990年度～5年間）において、恐れられていた川本輝夫さんなど全ての水俣病患者団体リーダー・事務局長や水俣市内各界各層の人（数百人）と会い意見交換を重ねながら、「子供たちにつなぐ水俣を語る市民の集い～あいとやすらぎの環境モデル都市を目指して～」（1992年4月）など各種市民の集いを実施、そして水俣病犠牲者慰霊式や環境国際会議等を患者団体参加により開催できたこと等により、地域が大きく変化し始めたことを実感できたことが大きな経験になりました。

・なお、ドラッカーの『「非営利組織の経営」や「イノベーションと起業家精神」との出会いも大きいです。

・そして、2000（平成12）年4月、介護保険制度スタートと同時に、思いもしなかった（笑）健康福祉部高齢保健福祉課長に就任しました。それまでの地域づくり経験・福祉分野との接点を踏まえ、「福祉とまちづくりの融合」を念頭に、また、潮谷義子知事の「命に首を垂れる」という言葉を胸に仕事をするようにしていました。

・就任早々、（ケアの実態など）わからないからこそ現場に出て学ぶということで、県内外の様々な施設を見学（初年度に約40か所）しましたが、認知症の方や障がいのある子ども・人と接すること通じて多くのことを学び、福祉分野の仕事に自信を持ちました。

1

・結果、従前の現場主義、地域主義に当事者中心主義を加えた3つを基本にするようになりました。

⇒具体的な施策としては、「福祉とまちづくりの融合」、「制度にはまらない福祉」を基本に地域共生を目指す「地域の縁がわづくり」「地域の結びづくり」「地域のちからおこし」を3本柱にした地域福祉推進を基本に、小規模多機能ホーム・グループホーム、また特養等での個室ユニットケア推進、更に、後年担当するようになった子ども・家庭支援や障がい者支援等に努めていました。

・また、健康づくり・介護予防や在宅医療・地域医療、保健・医療・福祉連携システム構築等を基盤的施策にしながら、当初県議会の抵抗感があった「障がいのある人も無い人も共に生きる熊本づくり条例」制定推進（県議会決議は2001年6月県議会）や従来からの防災消防へりにドクターヘリを加え、車の両輪体制とした「熊本型救急搬送体制」構築等に努めました、実りが大きかったと思います。

・また、「ハンセン病宿泊拒否事件」（2003年度）や「こうのとりのゆりかご問題」（2017年度～）への対応は良き学びにもなりましたが、一方で、汚染米事件等の食の安全問題、新型インフルエンザ等の感染症対策など、健康危機管理業務に追われることもありました。

・なお、県退職前の2011年3月1日に発生した東日本大震災時は、休暇を取り、水俣での退職激励会に向かう途中でのことでしたが、「福島と水俣」はその日から続いています。

☆「地域の縁がわづくり」は、全国知事会の2010年度先進政策（健康福祉部門）表彰。

また、蒲島郁夫知事創設の熊本県知事賞（蒲島賞）の第1回グランプリ受賞。☺

○県退職後は、熊本県町村会事務局長、社会福祉法人役員等を経て、前記の状況にあります。

※えにしとの縁

・ゆきさんと初めてお会いしたのは、県地域福祉支援計画策定中の2002（平成14）年の夏です。銀河ステーション施設長・阿部るり子さんたちとの懇談会（熊本市内の居酒屋：横鉢）に視察を終えて到着されました。平野みどり県議も一緒でした。

・以来、「えにしを結ぶ会」参加、「乃木坂スクール」受講をはじめ、熊本地震被災者支援、熊本豪雨災害被災者支援等で大変お世話になっております。ありがとうございます。<(_ _)>

<参考1>人事異動歴

① 出納室会計課資金管理班→②水俣湾公害防止事業所（水俣市）→③エネルギー対策課（4年、3年目に係長級昇任）→④熊飽事務所税務部徴収課徴収第4係長（熊本市）→⑤小国町企画室（阿蘇郡小国町）（2年間、1年目補佐⇒2年目政策審議員）→⑥企画課計画班主幹→⑦開発課水俣振興推進室（5年間、4-5年目は室長）→⑧人事課総務審議員（行革担当）→⑨人事課情報管理室長→⑩地域政策総室地域づくり推進室長→⑪鹿本事務所長（山鹿市）と、企画・まちづくりや水俣、そして行政改革等に従事した後、⑫高齢保健福祉課長就任。以降⑬健康福祉政策課長→⑭健康福祉部次長（地域保健福祉）→⑮環境生活部次長（水俣病対策、人権同和問題等担当）→⑯健康福祉部次長を歴任し、2008年4月、健康福祉部長就任（～2011年3月）

☆環境生活部時代の2006（平成18）年度後半は環境省水俣病発生地域福祉推進室

補佐を兼務（小池百合子大臣時代）～「胎児性水俣病患者等の地域生活支援事業」創設

☆1994～96年度の3年間、熊本大学教養部非常勤講師（「地域政策」講座）

2

<主な論文・記述文>

・「住民との協働による計画づくりこそ地域づくりの原点」

（「地方財務」1993年10月号；ぎょうせい）

・「地域づくりの構図と実例」

（「地理学研究報告IV（特集 地域政策）」1994年2月；熊本大学文学部）

・「地域づくり再考—熊本県の事例を中心として—」

（「熊本大学総合科目研究報告第2号」1999年3月；熊本大学）

- ・「地域共生ケアとしての小規模多機能ホーム～住民と行政のパートナーシップ」
(2005年4月発行「高齢者福祉論」(編著高谷よね子);学文社)
- ・「地域の縁がわづくりが拓く地域の未来～熊本発の地域福祉モデル」
(「月刊福祉」2011年1月号;全国社会福祉協議会)
- ・「福祉のまちづくりのポイント～地方自治体職員の皆さまへ」
(「地域支え合いのすすめ」2012年4月;全国コミュニティライフサポートセンター)
- ・「熊本県における生活困窮者対策一潤いのある2.5人稱の視点で」
(「貧困研究」2013年10月;明石書店)
- ・「水俣病問題に向き合い、水俣に学ぶ、そして水俣と共に・・・」
(「水俣病問題の概要」2015年6月;衆議院調査局環境調査室)
- ・「水俣病被害者と地域の福祉―差別・排除から地域共生社会へ」
(「月刊ヒューマンライツ」2016年5月;部落解放・人権研究所)

<参加の研究活動等>

- ・平成23年度厚生労働省社会福祉推進事業
「地域における住民の相互扶助の体制構築に関する調査研究事業」
(事務局;全国コミュニティライフサポートセンター)
- ・平成24年度 地域生活支援計画策定モデル事業
「地域生活支援計画策定プロジェクト委員会」自治体研修委員会(研修作業チーム)
(事務局;特定非営利活動法人 地域ケア政策ネットワーク)
- ・平成28年度「地域共生研究会」(主宰;堀田聡子国際医療福祉大学大学院教授)
- ・令和2～4年度 WAM助成事業「小規模多機能の包括的支援機能の強化事業」
(事務局;NPO法人コレクティブ(熊本市))